

# 七 産業の振興

## (一) 圃場整備

### 県営圃場整備事業久保田地区

### 県営特殊圃場整備事業久保田西地区

#### 事業の沿革

佐賀平野はわが国の重要な食料基地と目されているが、さらにこれを近代的な稲作地帯とするために、「新々佐賀段階米づくり運動」が展開された。久保田町はその中でも中心的な地位を占めていた。

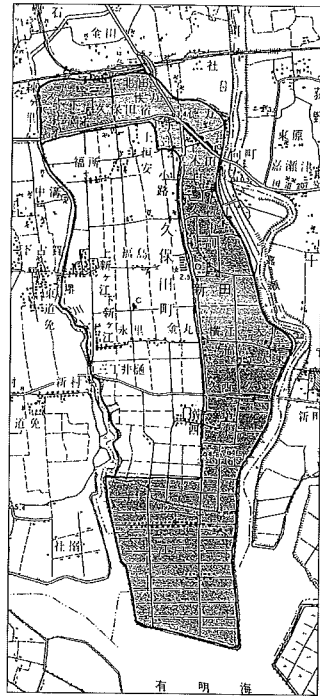
この地帯は、古来、有明海の自然干陸および干拓によって造成された土地であるので、用水堀と降雨時の排水を一時貯留するための不整形なクリークが多く、営農の機械化を大きく阻んでいた。

しかし、戦後二十数年にわたって施設された、国、県営嘉瀬川農業水利事業によって農業用水が確保されたので、これを機に稲作地帯に課せられた厳しい農政の現状を打破するために思い切った機械化をはかり、近代的な稲作集団を育成することを計画し、昭和四十五年県営圃場整備および特殊圃場整備事業で町全域、一、〇二二haの水田の基盤を整備し、さらには四十七、四十八年度には米生産総合パイロット、および高能率米麦作団地育成

対策事業によって、カントリーエレベーター・ドライストアール・トラクター・コンバイン等の大型施設や機械等を導入して、従来の一〇a当たり八〇時間以上の稲作労働時間を四〇時間以下に省力化するとともに米の品質改善と流通機構を整備するために、町を挙げて、この事業を推進した。

なお本事業に関連して、先に述べた国、県営嘉瀬川農業水利事業のほか、用水補給として四十九年度から着工を予定されている。筑後川土地改良事業および、地区東西を流れる河川の改良事業として、

#### 圃場整備



県営久保田地区(黒い部分)  
県営特殊久保田西地区(白い部分)

#### (1) 地積

##### a. 県圃

	水田	畑	小計	クリーク その他	計
現 状	540.5 ha	6.5 ha	547.0 ha	86.5 ha	633.5 ha
計 画	536.1	16.0	552.1	81.4	633.5

##### b. 特圃

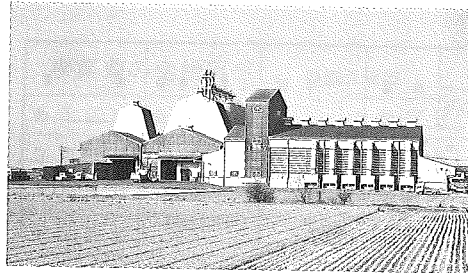
	水田	畑	小計	クリーク その他	計
現 状	481.8 ha	2.3 ha	484.1 ha	89.5 ha	573.6 ha
計 画	480.9	3.8	484.7	88.9	573.6

#### (2) 換地計画の概要

現在平均一団地20a1戸当り6団地を1団地40a1戸当り3団地として計画する。

項目 区分	関係 農家 戸数	1戸当り団地数		集 団 化 率 ( $\frac{P-Q}{P-T}$ )×100	1団地当りの面積		備 考
		従前の土地 (P)	換地 (Q)		従前地	換 地	
全区	794戸	6	3	60%	20 a	40 a	

圃場整備



コントリーエレベーター2号基

貯留した用水を還元水と併せ、さらに小型揚水機で暗渠式水路（管水路）に揚水し、これより末端圃場まで送水し、バルブで調節、灌漑する。

現在用水基幹関連事業として施行中の国営嘉瀬川農業水利事業にかかる久保田幹線水路より取水し、県営幹線水路を流下させ、各区内支線用排水路に分水し、ここで一時

用水計画

計画し東西は主に幹線道路を配しこれに支線道路を結んで道路網を形成している。

道路計画

地区中央にコントリーエレベーターを計画し、これに接した大幹線道路を南北に

大型機械化営農作業が可能な圃区を前提にして平坦な立地条件と用排水操作等水利条件を考慮して標準的作業区画は出来るだけフラットな耕地区とし、固定畦畔は原則として作らない。作物管理、栽培管理、水管理等からしてそれぞれ必要に応じて、自由に造廃出来るよう計画する。

区画の大きさ

本地区は佐賀平野の米の生産地であるが、クリークの分布とあいまって耕地区画の狭小不整形は甚だしく、これが地区農業発展の最大の阻害要因となっている。したがって近代的機械化営農を目的にして、クリークの統廃合による用排施設の改廃整備大区画整理等により農業近代化を計るものとする。

一般計画

建設省嘉瀬川改修事業および、県営福所江改良事業があった。

主要工事内容 (1) 整地工 (a) 県圃久保田

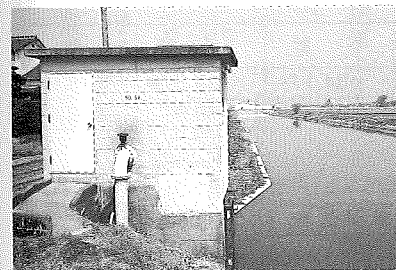
	面積	土量	10a当り 取扱土量	標準区画 (圃区)	摘要
表土	ha	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>		
心土	552.1 #	395 #	72 #	2~3ha	
クリーク	(28.6) #	298 #	1041 #		
計	552.1 #	693 #			

(b) 特圃久保田西

	面積	土量	10a当り 取扱土量	標準区画 (圃区)	摘要
表土	ha	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>		
心土	484.7 #		94 #	2~3ha	
クリーク	(66.8) #		814 #		
計	484.7 #	1002 #			

(2) 用水路 (a) 県圃久保田 (イ) 揚水機

項目 名称	位置	揚水量	揚程		揚水機			原動機		
			実揚程	全揚程	形式	口径	台数	形式	動力	台数
小形揚水機		0.06m <sup>3</sup> /s	3.5m	4.2m	渦巻ポンプ	150~200mm	46	電動機	5~7.5HP	46台



水路と小型揚水機



久保田幹線水路

圃場整備

事業費の負担区分(a) 県圃久保田

負担区分	負担率	負担区分	負担率	備考
国庫負担	45%	国庫負担	45%(50%)	( )内は地盤造成工
県費負担	30%	県費負担	30%(25%)	
地元負担	25%	地元負担	25%(25%)	

工 期 (a) 県圃久保田 (b) 特圃久保田西  
 着工年次 昭和45年度 着工年次 (実施設計) 昭和45年度  
 完了年次 昭和55年度 (事業実施) 昭和46年度  
 完了年次 昭和55年度

事業費 県圃久保田地区

費目区分	工種別	総 量	
		事業量	事業費
区画整理			千円
	整地工	A=510ha	487,997
	幹線道路工	11.374m	210,309
	支線道路工	45.650m	271,924
	支線水路工	55.557m	320,118
	暗渠排水工	55.403m	427,334
	支線排水路	4.593m	37,620
	小 計		1,755,302
かんがい排水			
	幹線水路工	901m	18,211
	幹線排水路工	1.451m	44,296
	小 計		62,507
暗渠排水			
	弾丸暗渠工	A=393ha	185,293
	小 計		185,293
	計		2,003,102
機械器具費			
営繕費			2,980
用地補償費			62,163
測量試験費			2,980
換地費			69,678
工事雑費			50,097
計			187,898
合 計			2,191,000
地方事務費			110,880
総 計			2,301,880

県特圃久保田地区

工 種	総 重	
	事業費	事業費
地盤造成工		千円
クレーク埋立	27ha	592,121
全体実施設計費		3,000
工事雑費		12,149
合 計		607,270
事務費		
総 計		607,270
区画整理工		
整地工	A=460ha	194,680
幹線道路工	12.572m	252,438
支線道路	32.030m	142,872
幹線水路工	1.758m	26,095
支線水路工	53.222m	309,978
支線用排水路工	38.821m	617,587
幹線排水路工	3.558m	70,140
支線排水路工		0
雑工事		14,693
小 計		1,628,483
暗渠排水工	A=412ha	183,491
小 計		183,491
用地補償費		53,560
換地費		39,084
小 計		92,644
計		1,904,618
工事雑費		37,512
計		37,512
合 計		1,942,130
事務費		122,821
総 計		2,064,951
総 合 計		2,672,221

(口) 用水路

水路名	支配面積	通水量	延 長			構造	こう配	主要構造物	備 考
			総延長	開 渠	その他				
幹線用水路	540.5ha	$\frac{m^3}{s}$ 0.07~0.25	901	3.045	m	コンクリート 土水路	1/2,500	分水工・暗渠工・水路橋	
支線用排水路	540.5ha	$\frac{m^3}{s}$ 3.15	55.403	54.281		土水路	1/5,000~1/7,000	A~C型樋工	
支線用水路	540.5ha	$\frac{m^3}{s}$ 0.02~0.07	55.557		49.783	ヒューム管	1/1,500	小型揚水機	

(b) 特圃久保田西 (イ) 揚水機

項目 名称	位置	揚水量	揚 程		揚 水 機		原 動 機			
			実揚程	全揚程	型式	口 径	台 数	形式	動力	台数
小型揚水機		0.06 $\frac{m^3}{s}$	3.5m	4.2m	渦巻ポンプ	150~200 mm	40台	電動機	5~7.5HP	40台

(口) 用水路

水路名	支配面積	通水量	延 長			構造	こう配	主要構造物	備 考
			総延長	開 渠	その他				
幹線用水路	480.9ha	$\frac{m^3}{s}$ 0.07~0.25	1.758	2.500	m	コンクリート 土水路	1/2,500	分水工・暗渠工・水路橋	
支線用排水路	480.9	3.15	38.821	39.970		土水路	1/5,000~1/7,000	A~C型樋工	
支線用水路	480.9	0.02~0.07	53.222		39.386	ヒューム管	1/1,500	小型揚水機	

(3) 排水路

項目 水路名	受益面積	排水量	延 長			構造	勾 配	主要構造物	備 考
			総延長	開水路	その他				
幹線排水路	1017.0ha	$\frac{m^3}{s}$ 8.34~29.22	5.009m	5.239	-	土水路	1/3,000~1/500	-	
支線用排水路	1017.0	2.57~5.67	94.224	94.251	-	*	1/5,000~1/600	制水門	流域面積15.94km <sup>2</sup>
支線排水路	1017.0	5.23~6.38	4.593	12.707	-	*	1/5,000~1/600	-	15.94km <sup>2</sup>

(4) 道 路 (a) 県圃久保田

区分	項目	延長	巾 員	構 造	最急勾配	付帯構造物
	幹線道路	11,374 m	5.0~6.0 m	土砂・砂利舗装	0.1%	橋梁・暗渠工
	支線道路	45,650	4.0	〃	〃	〃

(b) 特圃久保田西

区分	項目	延長	巾 員	構 造	最急勾配	付帯構造物
	幹線道路	12.572 m	5.0~6.5 m	土砂・砂利舗装	0.1%	橋梁・暗渠工
	支線道路	32.030	4.0	〃	〃	〃

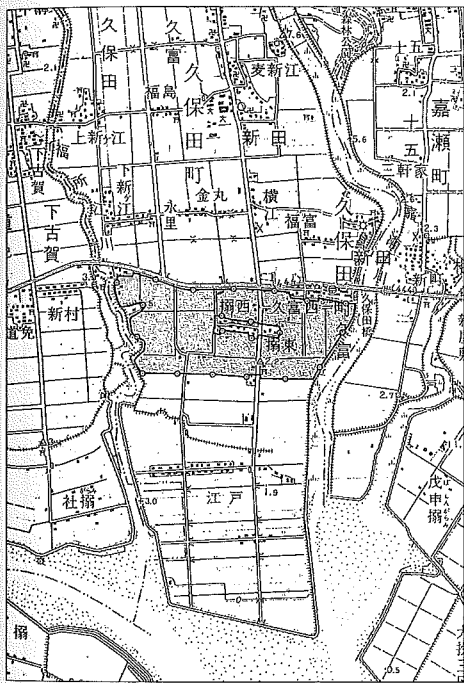
### 県営土地改良総合整備事業撈地区

本地区が属する久保田町は、有明海最奥部にあり嘉瀬川、福所江側の河川及び海岸堤防に囲まれた純平坦地であり、地質は河・海性沖積土壌からなる肥沃な米麦生産地である。

撈地区は、米麦を中心とした農業経営を行なっているが、都市近郊という立地条件や工場進出による労働機会の多様化によって、中核農家を除く比較的規模の小さい農家では主労働者の農業離れが進み、農家の兼業化、高齢化、婦女子化が進む中、農業従事者は高齢層、婦女子層へ変化している。そのため、各階層に見合った野菜の導入を行い、米麦作と併せた地域複合経営をめざしている。

地区内の基盤整備状況は、県営圃場整備事業久保田地区、久保田西地区によって区画整備され、また県営排特事業久保田地区によって湛水対策は完了している。

しかしながら、圃場整備事業については完了後約二〇年がたち、施設の老朽化が目立つ。また、本計画にて確立を目指す地域複合経営を行なう上での基盤整備が不十分である。したがって、本事業による各農業施設の再整備を行なうことによって、地域



位置図

複合経営の確立を確かなものとし、農業従事者の所得の増大を図ることを目的とする。着工平成八年度、平成十二年度完成をみている。

## (二) 農業団体のあゆみ

### 農業協同組合の合併

昭和二十二年十一月十九日、農業協同組合法の制定に伴う農業団体の整理等に関する法律が公布され、翌月の十五日に施行された。

この法律は、施行の日から八カ月以内に農業会は解散せよ、という指令に基づくものであり、その農業会の資産を引き継ぐ農業協同組合は、それまでに設立せよというものであった。農業会の解散の清算人は、第三代農業会長村田隆長（村長兼務）である。その財産を新設される農協に譲渡する任務をもつ久保田村農業会資産処理委員会ができ、その委員長と、新設の久保田村農業協同組合の設立発起人の代表、この双方に古賀了は関係せざるをえなかった。

当時、久保田村は干拓の土地配分問題で、二つの農協設立の動きがあり、一村一農協設立の実現は困難となつた。

昭和二十三年六月に久保田第一農業協同組合を設立、同年八月には久保田村農業協同組合が設立され、小さな村に二つの農協はお互いに悩みや問題を抱えながらの出発であった。翌年の八月にはジュディス台風の襲来によ

る大洪水に見舞われ、三日月・久保田・牛津・芦刈の四町村は、濁流が氾濫して水没した。  
久保田村は全戸が床上浸水、特に村中央部以南は、床上一丈以上の浸水で、農産物や家財道具など莫大な被害を受けた。農協もまた大きな損害を受け、スタートしたばかりの農協経営に暗い影をおとした。

未曾有の風水害で、災害復旧と組合長経営の立て直しに、村当局と組合員が一体となって復旧整理にあたった。  
昭和三十一年十二月には、火災で事務所が全焼するという出来事が起こり、度重なる不運に遭遇したが、組合員の弛まぬ努力・団結で困難を乗り越え、同三十二年には農協事務所の建築に着手、翌年四月末に竣工した。事務所は一〇九坪の近代的な建物であった。事務所の新築により組合員の組合に対する意識も高まり、農業経営の近代化に向けて、青年部を中心に農協理念の研究を徹底させた。

昭和三十四年四月に久保田第一農協より八五名の新規加入があり、出資金七六万円、耕作面積四九町、販売(集荷穀類)四、二〇〇噸、貯金財源二、〇〇〇万円、購買品供給高二五〇万円の規模拡大である。このような動きのなかから徐々に農協合併の気運が高まっていた。そして、農協運動二十年の宿願「農協合併」が実現したのは久保田町制施行の翌年、昭和四十三年十一月一日であった。

久保田町農業協同組合設立までの経緯

大正 十五年十一月 一日 久保田村信用販賣購買利用組合設立  
昭和 十九年 三月十五日 久保田村農業会設立  
昭和二十三年 八月十五日 久保田村農業協同組合設立認可

昭和四十三年十一月 一日 合併により久保田町農業協同組合として現在に至る。

歴代会長・組合長

産業組合 初代 石川又八 二代 高森豊吉 三代 西岡亮太郎  
農業会 初代 石川郁郎 二代 高森豊吉 三代 村田隆長

久保田第一農業協同組合

昭和二十三年 六月二十三日 久保田第一農業協同組合設立認可  
昭和四十三年十一月 一日 合併により久保田町農業協同組合として現在に至る。

歴代組合長

初代 藤戸 米次 二代 森 勇六 三代 大坪 正利

久保田農業協同組合歴代組合長

初代 古賀 了 昭和二十三・八・ 昭和四十二・五・三十一  
二代 中野 欽八 昭和四十二・六・ 昭和四十三・五・三十一  
三代 大坪 正利 昭和四十三・十一・ 昭和四十四・五・三十一

久保田農協

科目		年度	昭和43年度
資産	余 裕 金		246,577
	貸 出 金		315,016
	その他流動資産		164,247
	固 定 資 産		15,816
	外 部 出 資		9,976
計			751,632
負債・資本	貯 金		566,806
	借 入 金		58,812
	その他負債		99,380
	出 資 金		19,713
	剩 余 金		6,921
計			751,632

合併時の主要勘定

久保田第一農協

科目		年度	昭和43年度
資産	余 裕 金		54,063
	貸 出 金		66,744
	その他流動資産		37,380
	固 定 資 産		3,877
	外 部 出 資		2,818
計			164,882
負債・資本	貯 金		110,341
	借 入 金		29,132
	その他負債		21,140
	出 資 金		2,944
	剩 余 金		1,325
計			164,882

農業団体のあゆみ

- 夕五十六年 十月 カスケートドライヤー増設 (二号基)
- 夕五十七年 九月 カントリー一号基能力アップ改造 電算機導入 (オリベッティ) (購買、カントリーシステム)
- 夕五十七年十二月 大豆集荷所新築
- 夕五十八年 十月 給油所改築
- 夕五十九年十二月 金融徳万支店新築、Aコープ徳万支店新築 (十二月十二日オープン)
- 夕六十年 十月 野菜選果所新築
- 夕六十一年 八月 農機整備センター新築
- 夕六十二年 三月 農協事務所 (Aコープ久保田店) 新築
- 夕六十二年 九月 堆肥舎改築
- 平成 一年 十月 大豆選別所新築
- 夕二年 五月 カントリー三号基新築
- 夕四年 三月 玉葱貯蔵施設新設
- 夕四年 九月 肥料倉庫新設、農機具格納庫新設
- 夕四年 十月 汎用コンバイン二台導入
- 夕五年 七月 特産物直売所 (商工会、久保田町漁業組合共同運営)
- 夕五年十二月 レストラン与羅ん館新設



特産物直売所 (久富)

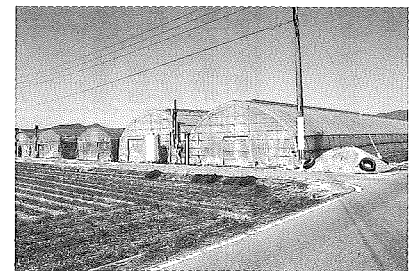


佐城農協久保田支所

- 四代 古賀 清吉 夕四十四・六・一 夕五十二・七・十七
- 五代 遠江 芳男 夕五十二・七・十八 夕五十五・五・十八
- 六代 中野 吉實 夕五十五・五・十九 夕平成 十・五・十八
- 七代 塚原 信明 平成 十・五・十九 夕十三・三・三十一

久保田農業協同組合沿革

- 昭和四十三年十一月 久保田町内二農協合併
- 夕四十五年 四月 野菜集荷所新築 (四二五、五五平方尺) 農機具センター新築 (二七三、六六平方尺) 農機格納庫新築
- 夕四十八年 十月 カントリーエレベーター一号基 (サイロ一、五〇〇ト) ビン七〇ト×二二)
- 夕五十年 十月 会計機 (オリベッティ) 普通貯金、日計、カントリー清算等
- 夕五十一年 九月 給油所新築
- 夕五十一年 十月 カントリーエレベーター二号基 (サイロ二、〇〇〇ト) ビン七〇ト×二二)
- 夕五十三年 一月 購買店舗拡張
- 夕五十三年 四月 農機機械格納庫 一棟 三八五平方尺
- 夕五十四年 十月 農業倉庫新築 (三三二、〇〇〇ト収容)
- 夕五十五年 八月 九州オンライン開通 (普通貯金、定期貯金)



ハウス園芸

## 平成十二年度基本方針

わが国経済は、依然として低迷したままで今日を迎え、多くの企業や団体は生き残りをかけた改革を断行、金融業界の系列化や再編、大企業同志の合併などが進められている。

農業情勢については、昭和三十六年に制定された「農業基本法」農政が終わり二一世紀の新たな時代に呼応した農政を推進するため、農業のみならず国民生活の基本である食料にも主眼を置いた「食料・農業・農村基本法」が昨年七月に公布、施行された。この基本法の理念を具体化に当たって農政改革大綱が策定され各施設ごとに改革が進められており、市場原理を反映させた価格形式が策定されたのをはじめ、麦の民間流通を柱とした「新たな麦政策」がスタートした。さらに米の需給均衡をはかりつつ稲作経営の安定を継続するとともに、食料自給率向上に向けて麦、大豆、飼料作物を中心とした土地利用型作物の本格的な生産振興を目指した「水田を中心とした土地利用型農業活性化対策大綱」が決定され、生産、流通が新たな時代を迎えようとしている。

J Aの経営を取り巻く環境は、管理経営の抑制傾向にあるが事業取り扱い高の伸び悩みや利鞘の縮小から収益の確保が難しく極めて厳しい状況置かれている。従って一層の経営改善に向けた取り組みの強化を図る必要がある。

このような情勢のなか、J Aは新たな事業、組織体制の強化を図るため事業、組織改革を行い、組合員農家にとって頼れるJ A、自己完結機能の高い魅力あるJ Aが求められている。

従って組合員の期待と信頼に応えるため、佐城地区八J Aが広域合併し「新しいJ A」の実現に向けた取り組みを行う。

## 重点事業

### 体質の強い農業の構築

土地利用型農業の生産性の向上と生産調整の実行確保を図るため水田営農の見直しと再構築を進める。

多様な担い手の確保・育成対策の推進。

「新地域営農集団育成運動」の推進。

優良農地の確保と土地の高度利用を推進する。

三組織の主體的な活動を支援し、J A事業活動への積極的な参画を促進する。  
農業の持続的発展を図る政策確立運動の展開

農業、農村が持続的に発展できるよう、新基本法に基づく各種施策等の充実強化を求める。地域農業を担っている意欲ある農家が、将来展望をもって生産活動に取り組める総合的政策の確立を目指し、農政運動を展開する。

「食料・農業・農村基本法」関連施策の具体化に向けた運動の展開。

農政活動に関する学習と意志結集の促進。

農産物の政策・価格対策に取り組む。

経営の健全化・効率化の徹底

自己管理責任原則に基づく業務執行体制の整備、強化をすすめるとともに平成十二年のペイオフ解禁までに健全、透明、堅実な経営を確立し組合員や地域社



農地（干拓堤防より）

J A くぼたの概要

(H12.3.31現在)

1. 組合員・組合員戸数

資格区分		前年度末 員数	本年度 加入	本年度 脱退	本年度末 員数	
組合員数	正組合員	個人	1,600	32	142	1,490
		団体	0	0	0	0
	准組合員	個人	615	59	3	671
		団体	20	0	0	20
合 計		2,235	91	145	2,181	
組合員戸数	正組合員	個人	689	0	47	642
		団体	0	0	0	0
	准組合員	個人	467	57	3	521
		団体	20	0	0	20
	合 計		1,176	57	50	1,183

2. 役員

役名	異動事項	定数	前年度末	本年度異動		本年度末
				就任	退任	
理事	常勤	1	1	0	0	1
	非常勤	12	12	0	0	12
監事	非常勤	5	5	0	0	5
	計	18	18	0	0	18

3. 職員

項目	前年度末			本年度末		
	男	女	計	男	女	計
職員	42	14	56	44	14	58
臨時及嘱託	8	9	17	8	8	16
パート	0	27	27	0	26	26
アルバイト	11	8	19	13	17	30
計	61	58	119	65	65	130

会の信頼向上をはかるために①不良債権の早期解消発生防止 ②自己資本の充実 ③リスク管理の徹底を主眼とするJA経営健全化推進対策に取り組む。

厳正な資産査定の実施および適正な引当、償却の実行。

ディスクロージャーの徹底。

税務関係処理、適正申告の徹底

豊かな暮らしの創造と高齢者福祉活動の推進

地域とともに新しい社会システムの構築が求められるなかで組合員の豊かな暮らしを支援する生活活動と高齢者にやさしい地域社会づくりを重点課題として取り組む。

JA助け合い組織の設置および活動の推進。

組合員の健康管理意識を啓発する。

新たな事業・組織改革と佐城地区JA合併の実現に向けた取り組みを行う

組合員・役職の意向調査や各種会議、集落座談会等で、ニーズの把握と事業・組織改革の意義・方針を徹底し、自らの改革としての合意形成に努める。

佐城地区JA合併の実現に取り組むため、各種会議・集落座談会の実施により、組合員の意見・要望を聞き入れ、期待と信頼に応えられる佐城地区JAの実現をめざす。

5. 組合員組織及び協力組織

組織名称	代表者氏名	組織数又は支部数	構成員数
生産組合	高柳政昭	25	465
J A青年部	原田孝行	13	26
J A女性部	塚原順子	28	428
胡瓜部会	古賀久雄	1	14
トマト部会	中野清人	1	3
小ネギ部会	久保操	1	21
イチゴ部会	蘭正信	1	13
玉葱部会	蘭惣一郎	1	96
畜産部会	中尾享	1	11
米麦部会	西岡弘	1	37
メロン部会	松尾静	1	1

6. 出資金

(単位：千円)

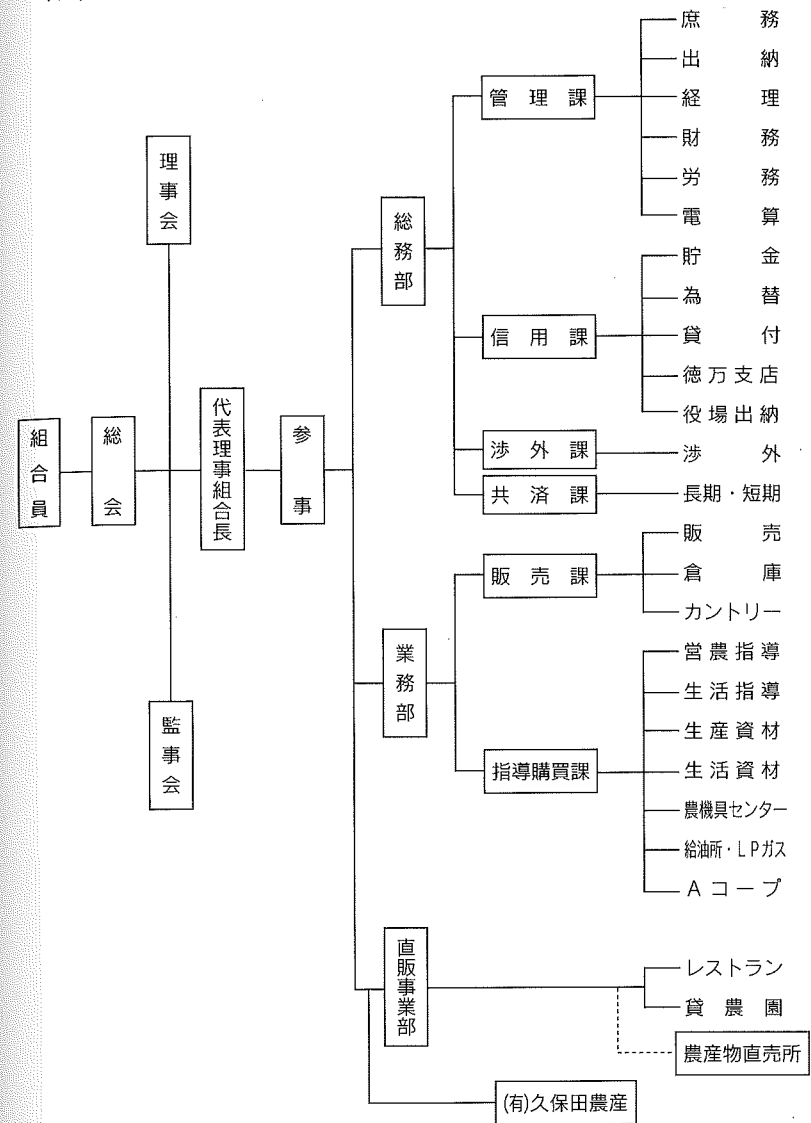
	前期繰越高	当期増加額	当期減少額	期末残高
出資金	137,267	10,436	10,649	137,054

7. 固定資産

(単位：千円)

種類	前期繰越高	当期増加高	当期減少額	期末残高	減価償却累計額	帳簿価額	
有形固定資産	土地	553,277	41,743	0	595,020	0	595,020
	建物	995,940	294	0	996,234	585,403	410,831
	構築物	303,545	0	0	303,545	237,654	65,892
	機械装置	511,680	81,571	8,318	584,933	441,518	143,414
	車輛運搬具	38,445	674	0	39,119	35,727	3,392
	器具備品	106,067	1,983	24,310	83,740	71,684	12,056
	建物付属設備	160,646	0	0	160,646	121,158	39,488
	一括償却資産	105	143	153	95	0	95
計	2,669,704	126,408	32,781	2,763,331	1,493,144	1,270,188	
無形固定資産	28	0	10	18	0	18	
合計	2,669,733	126,408	32,791	2,763,350	1,493,144	1,270,206	

4. 組織機構図



### (三) 水産業

久保田町の南限は、独特な海域を展開する有明海である。山地から流れ下った泥土は、有明海特有の潮流・干満の差六呎という海洋条件の中で、干潮時には海岸から数呎に及ぶ肥沃な干潟が出現する。この海に生息する魚介類も様々で、むつころうその他、珍味の魚介類が生息している。

戦前は、カキの養殖が主体で、生カキを九州一円から大阪方面まで出荷していた。また、生カキをゆでて干しカキに加工し、長崎の商社を通じ、中国や東南アジアの国々にも輸出していた。一部はカン詰めも生産していた。当時の漁業は、カキ、アサリ、モガイの養殖と刺し網漁が主体であった。むつころうの捕獲には、ひっかけ、掘りムツの二つの方法があるが、竹筒によるムツ受けも考案された。

品質・量ともに日本一を誇る有明のりの養殖が始まったのは、昭和三十一年からで、棚数・水揚げも順調に伸びていたが、最近では海洋気象や川からの流水量やプランクトンの問題等、様々な要因により従来の良質な有明のりの生産に一層の研究が必要となってきた。

#### 久保田町漁業協同組合

設立 昭和二十四年九月二十四日

所在地 久保田町大字新田一五〇〇の一四

構成 理事 六名

監事 四名

職員 五名

(購買二名・販売一名・信用一名・庶務一名)

組合員 正社員 一〇一人 準会員 五四人 計 一五五人

経営体数 九九

施設

事務所 鉄骨二階建てスレート葺き

総面積 一七六平方呎

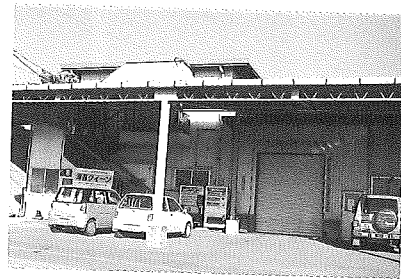
のり集荷場 鉄骨平屋建てスレート葺き

総面積 五一一平方呎

事業経過

昭和五十三年から福所江漁港として県の指定を受け、久保田町と芦刈町、県の事業主体で工事をはじめ完成した。漁場への往復時間も短縮され、のり期の作業も楽になり品質の向上ともあわせてのり生産に大きく貢献している。

昭和五十四年十月、第二次沿岸漁業構造改善事業でのり検査場と保管倉庫の合体工事を行い、施設二階部に事務所を新築した。組合員で準組合員が多いのは干潟漁業をしている者がいる関係でもある。



久保田町漁業協同組合 (久富)

歴代組合長

初代	船津丸平助	昭和二十四・九	昭和二十八・六
二代	大坪 正利	二十八・六	三十・五
三代	東 吉次	三十・五	三十六・五
四代	船津丸喜敏	三十六・五	四十二・五
五代	陣内 勝裕	四十五・五	四十八・五
六代	大坪 正利	四十八・五	五十一・五
七代	鶴丸 祐夫	五十一・五	五十四・五
八代	田中 嘉文	五十四・五	六十・五
九代	力久富士男	六十・五	六十三・五
十代	大坪 俊輔	昭和六十三・五	平成 三・五
十一代	右近田太郎	平成 三・五	六・五
十二代	中尾 清治	六・五	現在



有明海干潟

福所江漁港

嘉瀬川及び福所江に散在する旧来の漁港を、総合整備するため、昭和五十三年十二月六日（農林水産省告示第五五五号）漁港指定を受け、第六次整備計画に基づき、昭和五十三年度より一号物揚棧橋の工事に着手。

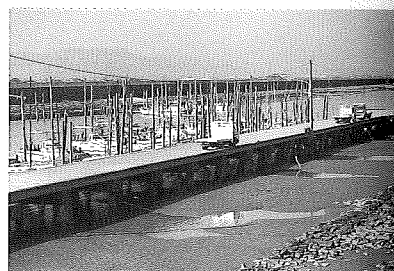
その後、係留施設・取付棧橋・水域施設・機能施設・道路等、昭和五十三年から始まった工事は、有明海という独特な海の条件のもとで、一〇次に亘る整備事業が平成十七年度迄計画されている。この事業は、佐賀県が事業主体で管理者も佐賀県である。

施行場所は佐賀郡久保田町大字江戸、小城郡芦刈町大字下古賀の二町に跨がる事業である。

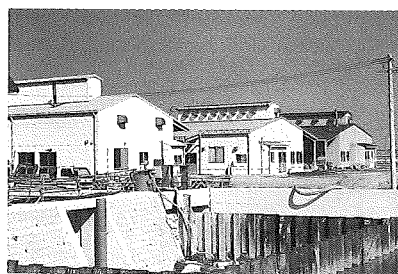
(四) 商工業

商工業の歩み

久保田町の商工業者の発祥は古く、九州の幹線道路の一つであった長崎街道沿いに、久保田宿と徳万宿の二つの宿場があり、久保田宿は群雄割拠した戦国時代に遡り、徳万宿は江戸時代に繁栄した宿場で、明治・大正・昭和のはじめまで、昔の面影を残していた。明治二十九年久保田駅の開設により駅前商店街が出来た。更に唐津線の開通により、長崎本線の分岐点となり乗り換えの客で賑わった。大正十一年三月西肥板紙株式会社の併設により関連企業も起こった。昭和十七年五月西肥板紙株式会社と牛津板紙株式会社と合併して佐賀板紙株式会社と改称した。その後本州



福所江 漁港



のり協業施設

製紙株式会社となり、現在王子製紙株式会社佐賀工場となった。

嘉瀬川下流の福富には、元禄元年創業の窓の梅酒造株式会社があり、南は有明海に面し、海運にも便利であった。幕末から明治初期にかけて、商家の主たるものは、京阪方面から直接仕入をし、これを諫早、島原、北松浦後方面まで卸売りをした。

急激な経済社会の変化、特に交通運輸手段の発達に伴い、消費者の行動範囲も拡大した。最近では近隣市町村への大型店舗の進出により、小店舗の散在する久保田町では、商業の活性化をめざし商店街近代化構想策定事業の推進がのぞまれる。

工業については、昭和四十八年、久保田町企業誘致第一号としてタイラ工業(株)が中副に、中塚被服(株)佐賀工場と二工場の進出があり、最近では、親和テクノ(株)久保田センター、五光工業(株)、九州精密工業(株)等工業の近代化が進みつつある。また、周辺町が一体となつて進める町づくり運動が展開され、佐賀郡南部(諸富・川副・東与賀・久保田)では有明海の干潟に面しているので「ドロソバ王国」を結成している。

### 商工会の沿革

久保田町商工会の活動は、昭和三十年頃任意団体として、久保田村商工会が設立されてからである。昭和三十五年六月十日、商工会法が制定されるに伴い、任意団

体としての商工会が母体となり、昭和三十五年六月末に、カ久兵次氏を設立発起人代表として久保田村商工会設立準備委員会が発足した。

昭和三十五年七月二十七日、創立総会を開催し、久保田村商工会が設立された。

会長 カ久兵次

副会長 香月義雄・田中今朝六

理事 一〇名 監事 二名

昭和三十五年八月 一日 認可申請書県へ提出

九月二十三日 設立認可される

九月二十八日 久保田村商工会設立登記完了、事務所を役場内に置く。

名実ともに特殊法人「久保田村商工会」としてスタートする。

昭和四十二年四月 五日 久保田村商工会青年部創立

昭和四十五年四月 一日 久保田村が町制施行に伴い、名称を久保田町商工会に変更する。

昭和四十七年五月二十一日 第二回通常総会で商工会館建設を満場一致で決議する。

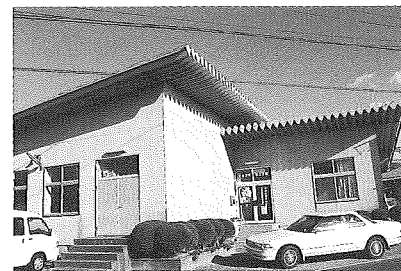
建設地取得 五五六・一〇平方メートル

国・県・町の補助金、会員の協力により久保田町商工会館完成。

総工費 一五、六〇〇千円 構造 鉄骨造並鉛メッキ鋼板葺平屋建



ドロソバ王国標示板



久保田町商工会 (横江)

建物延面積 一九六・二一平方メートル

久保田町商工業のセンターとして、各種の指導事業や講習会・研修会場として活用され現在に至る。

昭和五十年 十月 八日 久保田町商工会婦人部創立。

下部組織 謎の旅行シール加盟店、久保田税務相談所、佐城地区青申会久保田支部、学校給食納入組合  
食品衛生協会久保田分会、久保田町商工会物資納入組合

#### 久保田町商工会歴代会長

初代	力久 兵次	昭和三五・七・二七	昭和三六・五・二四
二代	原田 慶六	昭和三六・五・二五	昭和三九・五・二四
三代	香月 義雄	三十九・五・二五	四五・五・一九
四代	手塚 万次	四五・五・二〇	四八・五・一七
五代	大島 一	四八・五・一八	六〇・五・一二
六代	原田 参次	六〇・五・一三	六三・五・二五
七代	田中 利治	六三・五・二六	平成一二・五・二二
八代	木村 正幸	平成一二・五・二三	〃

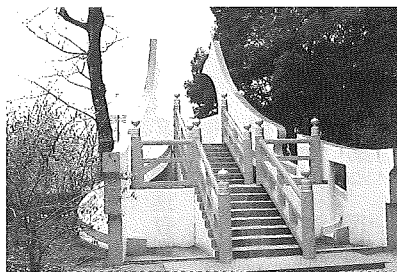
現在

## 八 教育・文化

### 概 説

久保田町は早くより仏教文化の開花した地域と考えられる。その理由を二・三挙げると、往時の人々の暮らしを偲ばせる多くの寺社が存在する。その数や年代の古いこと等注目されるところである。最古の寺は久保田町上恒安にある、王子山三学寺（天台宗）で、承和五年（八三八）で、天台宗関係の寺院が周辺他町に比べ多いのも特色の一つである。嘉瀬川の流れた沿った古い港を地名にしている所には、平安時代の渡来僧「鑑真和上」の上陸地といわれる所や、鎌倉時代の作と推定される仏像、僧行基に関わる伝説、上恒安遺跡を中心とした出土品の数々に古代の息吹を感じさせられる。

中世になれば、龍造寺一門の居館があり軍役を免ぜられた豪族の曰々は、文化的な活動の中に明け暮れたであろうと推測される。龍造寺の姓を村田に変えた一族は、久保田に連綿と続き、江戸時代は外国文化の窓口であった長崎に近い事もあって、西欧文化に接する機会に恵まれ、家臣を長崎や他の学問所に派遣するなど、教育・



鑑真和上上陸記念碑